

(様式2) 平成30年度〔自己評価報告書〕

|      |           |
|------|-----------|
| 学校番号 | 学校(園)名    |
| 30   | 川崎市立宮崎中学校 |
| 校長名  | 田中 真理子    |

| 学校教育目標   | 学校経営の目標   | 今年度の重点目標                                     |
|--|---|--|
| ・理想を高め、自主自律ある人間の育成<br>・勤労を尊び、実践力のある人間の育成<br>・豊かな情操を身につけた人間の育成<br>・互いの人権を尊重できる民主的な人間の育成 | (1)自ら学び、考える生徒の育成<br>(2)開かれた学校づくり<br>(3)教職員の資質向上 | 1. 授業力の向上<br>2. 心を育てる教育の実践<br>3. 安全危機管理意識の向上 |

| 評価項目                                | 具体的な取組  | 実現状況及び課題  | 具体的な改善策   |
|-------------------------------------|---|---|---|
| 1<br>わかる授業<br>生徒が達成感を持てる<br>授業展開の実践 | 生徒に「確かな学力」を身につけさせるため、単元のねらいを明確に伝え、「わかる・できる」達成感を味わわせる  | ○授業方法の工夫と改善への継続的な取り組み<br>○教科会、研究授業、情報交換等の励行<br>○道徳・特別活動・総合の授業について全職員での取り組み<br>○学習環境への意識の向上<br>●板書や発問を意図的に行い、生徒の学習活動を支援の工夫する | <p>⇒①授業力の向上<br/>～ 言語環境の整備<br/>自分の考えを正しい言葉で伝える ～</p> <p>⇒②心を育てる教育の実践<br/>～ 自他への思いやりの心を育てる ～</p> <p>⇒③安全危機管理意識の向上</p> |
| 2<br>学習環境の整備                        | 授業者・担任として、教室の美化や掲示物等に気を配り、「学習の雰囲気」作りを行う<br>家庭学習の習慣の呼びかけ(学習の定着)                              | ●新学習指導要領を意識した授業改善と研修<br>○学習効果を高める環境づくり(教材・教具・掲示物)<br>●評価についての研修を深める必要性  |   |
| 3<br>各教科で身につける<br>国語力と言語環境の整備       | 実生活の中で生かせる言語力の向上<br>「話す」「聞く」「書く」の学習場面を意図的に作り指導する<br>言語環境の整備に努める<br>正しい言葉、美しい言葉の使用           | ○生徒への言葉かけ・話し方の研究<br>●正しい言葉づかいの指導<br>○「授業の基本的ルール・発言のルール、マナー」の指導  |   |
| 4<br>授業評価による授業改善                    | 生徒一人一人をよく観察し、授業への取り組み、理解の状況を把握し、次の授業へ活かすように努める  | ○教員同士の的確な情報交換の実践<br>○福祉体験・職場体験、保育実習等体験活動を実施<br>●視聴覚教材・教具の効果的な活用   |   |
| 5<br>道徳授業を核とした<br>心の教育の推進           | 話し合い活動を充実させ、自他への思いやり、集団の一員としての自覚を育てる<br>感謝の気持ちを大切に作る雰囲気作り                                   | ○共生・共育と運動させた全職員での取り組み<br>○あらゆる教科、活動場面を通して心を育てる教育の実践<br>○人に対する心配りへの気づき・「聴く」ことの指導   |   |
| 6<br>挨拶や身だしなみ等<br>基本的生活習慣の確立        | 日常生活において、挨拶やマナーを大切にし、コミュニケーション能力の向上、人格形成(大人になる、人として)においても重要であることを伝え育てる<br>教師自身の身だしなみに気を配る   | ○あいさつ、ありがとうの言葉かけ<br>○教員同士の指導事項の確認<br>○時間を守る意識の向上<br>○服装や頭髪への気遣い   |   |
| 7<br>自己肯定感の育成と他<br>者理解の心の育成         | 生徒・教師・保護者・地域の連携を大切に、人権感覚(他者理解)を育て、いじめや生徒指導の早期発見・対応・解決に努める<br>チームとしての対応を心がける<br>体験・校外学習の取り組み | ○教科学習・部活動等を通して「賞賛と激励」の励行<br>○アンケートや教育相談の実施<br>○「人の気持ち・立場」を考える場面の設定<br>(福祉体験・職場体験・校外学習)                                      |   |
| 8<br>健康・安全教育の推進<br>と危機管理意識の向上       | 常に安心・安全な学校・学級作りに気を配り、点検整備を進んで行う<br>生徒の危険回避能力を育てる<br>「命の尊さ」を継続的に指導する                         | ●生徒の事故、けが等への対応の迅速かつ的確な判断<br>○学校生活のあらゆる場面での安全配慮への意識の向上と実践  |   |
| 9<br>家庭地域との連携と<br>情報発信と収集           | 学校や学級の考え方や、学校行事・生徒の活躍を保護者や地域に積極的に広報し、理解を図る<br>保護者や地域とのふれあいを活かす                              | ○PTA行事、祭礼、宮中フェスタ等への多数の職員の参加<br>○学校通信、学年通信、学級通信、部活通信等積極的に発行<br>●より深い保護者の意向、考えの聴取の必要性   |   |
| 10<br>その他(教員の資質向上・特別支援教育の取組み)       | 教員としての資質向上をめざし、研修、教材開発等に積極的に取り組む<br>特別支援教育への意識を高める<br>教員同士の連携・情報交換を密にする                     | ○研修会、授業研究会への取り組み<br>○教員同士の情報交換、支援体制<br>○特別支援教育・支援教育の理解と実践<br>●不登校生徒への支援   |   |

| 学校関係者の評価  | 今年度のまとめ・次年度へ向けての取組  |
|---|---|
| <p>新学習指導要領を意識した授業改善をしながら、授業力の向上を目指してほしい。心を育てるということから、道徳教育の実践、研修が必要と思われる。不登校対応については、様々なケースがあると思うが、担任がひとりで抱えこまないよう、チームでお願いしたい。地域も協力し、見守りたい。</p> | <p>伝統校としての誇りをもちながら、現状維持を保ち学校全体が落ち着いた日々を送ることができた。今後も生徒一人一人を大切に、徹底的に寄り添いながら①授業力の向上②心を育てる教育の実践③安心安全な学校づくりを3本柱に、教職員一丸となって取り組んでいく。日々の活動を振り返り、改善を意識し、よりよい学校運営を行う。自然災害に備え、防災意識を高め「生きる力」を培う。特別な支援を要する生徒や不登校生徒への支援については、具体的な方法で対応する。</p> |